

シリーズ環境問題 ⑧・・・自然とは何か



今回は一見当たり前の、「自然」と言う言葉に焦点を当ててみたい。

自然とは何であろうか・・・。環境を語る上では、通常、山や川などのことを自然と言ったりする。広辞苑には、①おのずからそうなっているさま。天然のままで人為の加わらないさま。あるがままのさま。と書かれている。不自然と言えば通常その逆で、人工的なものを思い浮かべる。

では、杉やヒノキの人工林は果たして自然と言えるのか。川といつても、上流部のダムから流れ、平地では生活排水が流れ込み、三面をコンクリートで固められた川はどうか。草や木、花も同様に、それそのものは自然を感じさせてくれるものも、花壇の花、公園の芝生、街路樹は「自然」か。田んぼや畑は・・・。

もし、こういったものが自然でないとすれば、私たちの周りに「自然」はほとんどない。私たち周りには、人の手の入っていない自然などほとんど残されていないのだ。だとすれば、私たちが「身近な自然を守ろう」と言うときの自然とは、人の手の入った自然ということになる。では、自然と不自然の境目をどう考えればよいのだろうか。

私は、どれだけ生態系が保たれているか、と言う辺りにその境目があるのではないかと思う。生態系ピラミッド（食物連鎖）がしっかり残っている所ほど自然であり、人以外の生物が住みにくい所は不自然である、と考えるのだ。生態系が保たれていると言うことは、多くの動植物が存在し続けられるということであり、人の手の入っていない場所に近い環境ということだ。そう考えると、多くの動植物が見られる里山や田んぼは自然に近く、ヘドロが溜まりコンクリートで固められた川や、荒れた杉やヒノキの人工林などは不自然に近いことになる。里山や人工林のように、一度人の手が入った所は人が手を入れ続けなければ荒れていく。今問題なのが、この荒れてしまった里山や杉林などの整備の問題だが、これについては又の機会にしたい。

多くの動植物には多様性が必要である。一つの生物しか存在しない所には、多くの生物は生きることが出来ない。食物連鎖が成り立たないからだ。「環境にやさしく、緑化をしましよう」と言って、芝生を植えても、コスモス畑をつくっても、人は喜ぶが他の多くの生物は喜ばない。これらは環境のための事業でなく、観光のための事業ということになるだろう。

皆さんは自然が好きですか。それとも・・・。

掲示板



★ 第9回川口けいすけ議会報告会 ★

日時：7月12日（日）13時30分～16時30分

場所：古谷公民館1F会議室 古谷公民館 TEL 049-235-1834 駐車場有り

内容：6月定例会について、川口の一般質問、他の活動、皆様からのご意見・ご質問、等。

お茶を飲みながらのオープンな会です。出入り自由、無料、初めての方大歓迎です。

皆様のお越しをお待ちしております！

★ 弁護士による無料法律相談会 ★

日時：7月25日（土）14時～17時

場所：古谷公民館1F会議室 古谷公民館 TEL 049-235-1834 駐車場有り

予約：弁護士相談は完全予約制になります。（お一人様30分）7月20日迄に川口までご連絡の上、ご予約下さい（ご相談内容は伺いません）。担当は川越市在住の藍谷邦雄弁護士です。



ご意見・ご感想、皆様の声をお聞かせ下さい。

★ ポスティング等ボランティア募集中！ ★

提案型地域情報誌グリーンズ川越は、2003年より政治を身近にしていくための活動の一つとして始め、2007年からは議員活動報告をプラスし、私の考え方と共に皆様にお届けしているニュースです。なお、手配りのためにタイマーにお届けできない場合がありますがご了承下さい。バックナンバーはホームページで見ることができます。ご希望の場合はお届けします。

<http://k-k31.my.coocan.jp>